

「山口市小中一貫教育基本方針(案)」のパブリック・コメントに対する回答

1 募集期間 令和5年2月14日(火)～令和5年3月16日(木)

2 意見提出者 3名

意見者	意見の要旨	回答案
意見者1	地域を含めて大きな変化となるが、市民に周知がなされていないように感じる。保護者を含め、もっと周知をしていく必要があるのではないか。	今後、学校運営協議会やPTA総会等、様々な機会を捉え、丁寧に説明するとともに、リーフレット等を作成し、保護者への配付やウェブサイトへの掲載を行うなど、広く周知を行っていくこととしております。
意見者2	基本方針にある考え方の多くに共感したが、「めぎす子ども像」という言葉について少し気になった。「めぎす」は行き過ぎると理想になり、子どもに押しつけることにならないか。	「めぎす子ども像」の設定にあたっては、学校の思いだけで設定するのではなく、学校運営協議会における熟議、アンケート等とおして、地域・家庭の願いのほか、児童生徒の思いについても反映できるよう工夫していきます。
意見者3	<p>① 地域の灯としての学校について</p> <p>学校は地域の中核であり、その役割と意識は今も変わらないと考える。児童生徒は小・中9年間に日々地域と関わり、生涯生活の基盤をつくっていく。この連続した学びを地域が支えていくことで、さらに地域が創られていくことにもつながると考える。</p> <p>② 海外日本人学校の勤務経験から (小中が同一校地内にある学校に勤務していた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫性に視点を当てたカリキュラムの編成により、効果的な指導が可能となる。 ・学習が9年間のスパンで組織化されるため、児童生徒個人の能力と個性がより発揮されやすくなる。 ・学校行事においては、中学生がリードしていくことで、 	<p>① 本市のめぎす小中一貫教育は、「子どもたちの笑顔と幸せ」の実現のために、コミュニティ・スクールを基盤とした義務教育9年間の連続性のある学びを具現化し、小・中学校、家庭、地域が一体となって取り組んでいくものです。学校と家庭、地域とのつながりをこれまで以上に深め、学校を核に家庭を含めた地域社会全体を一つの教室として、子どもの学びと育ちを支えていきます。</p> <p>② 御自身の御経験から、小中一貫教育の効果やよさを御教示くださりありがとうございます。今後の取組にしっかりと活かしてまいりたいと思います。</p> <p>なお、本市の大半の中学校区では、施設分離型の施設形態となっているため、地域の実態や、それぞれの校区の特色を生かして、小・中学校が協働して地域とのかかわりや連携を深め、特色ある一貫教育を進めてまいります。</p>

「山口市小中一貫教育基本方針（案）」のパブリック・コメントに対する回答

	<p>小学生は役割分担しながら何年か後の見通しをもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none">・施設一体型の小中一貫校の場合、特別教室や体育館などの施設使用が重ならないよう工夫する必要がある。・小学校教員が中学校教員から専門的な指導を受けたり、中学校の教員が小学校での教育の様子を見て個に応じた指導を学んだりすることができる。・地域の教育資源を教材に生かし、地域の人材を学校に招き入れることで、児童生徒の発達段階に応じた教育が可能となる。・中学生が小学生を優しくお世話したり声かけをしたりすることで、学校に潤いがもたらされる。	
--	---	--